

[北方林業研究室]D. 広葉樹天然生林の解析

柿原, 道喜
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

今田, 盛生
九州大学農学部附属演習林 : 助手

田中, 玄三
九州大学農学部附属演習林 : 助手

<https://doi.org/10.15017/1456304>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和42年度, pp. 82-82, 1968. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



D. 広葉樹天然生林の解析

柿原道喜・今田盛生

田中玄三

北海道演習林における広葉樹天然生林は、ミズナラを主とする老令過熟林分、優良二次林と、ミズナラ、イタヤカエデ、シナノキ、ヤチダモ、ニレ類、エンジュなどを主とする蓄積、形質ともに不良な疎悪天然生林に大別され、前者については二次林作業が行なわれ、後者については針葉樹人工林への林種転換が急速にすすめられている。本研究は、後者の林分を研究対象として、その実態を明らかにすることにより今後の施業上の指針にするとともに、将来は解消されるであろう演習林設立当初の天然生林の林分構成を記録にとどめることを目的とするものであって、本年度においては、最近、数年間に調査された12個の伐区について、その実態の解析をこころみた。その結果は次のとおりである。

1. ha 当り平均本数は367本(最大589本、最少185本)、平均材積は98.68 m^3 (最大152.32 m^3 、最少43.38 m^3)である。
2. そのうち用材の占める割合は、本数で7.9%、材積で32.8%である。
3. 径級別本数歩合は、20cm未満のものが76%と大部分を占め、径級が大きくなるにしたがって漸減する。これに対し、径級別材積歩合は、31~50cmのものが41.6%と最も多い割合を占めている。
4. 樹種別本数割合をみると、もっとも多いのはイタヤカエデ(19.1%)で、以下、シナノキ、エンジュ、ニレ類、ヤチダモ、ミズナラの順になっている。これを用材のみについてみると、もっとも多いのはミズナラで、以下、シナノキ、ニレ類、イタヤカエデ、ヤチダモ、センノキの順となる。